

—第55編—イギリス生まれの社会主義的共同体のメッカ

1800年を挟んで生きたロバート・オーウェンは、産業革命下に登場したイギリス最初の社会主義思想家、実践家であった。グラスゴー南部の「ニュー・ラナーク」*₂で実施した社会実験は大成を収め、「模範的共同体」、「社会改良家のメッカ」として、一躍世界の注目を集めることになった。

クライド川*₃の流れを利用した水力紡績工場を中心とするこの工業村は、1784年デヴィッド・デイル*₄によって建設された。若くして財を成したオーウェンは、この工業村を



写真55-1 谷間のニュー・ラナーク全景



写真55-2 クライド川沿いの施設群



写真55-3 最も初期の小学校

*₁
Robert Owen
(1771-1858)

*₂
New Lanark

*₃
River Clyde

*₄

David Dale(1739
-1806)スコット
ランドの実業家

義理の父となるデイルから買い取り、1800年に独自の「協同社会論」に基づく社会改良実験に着手した。すなわち、搾取する資本家と搾取される労働者という関係を打ち破り、労働環境とその生活環境を共同社会として作り上げる画期的な試みに身を投じたのである。

良好な住環境はもとより、店舗の整備や村内で利用できる地域通貨による給与の支払い、労働力とみなされていた子供たちの教育施設の創設等々、オーウェンの試みは多岐にわたった。そのハードな物理的計画からソフトな政治経済的な仕組みに至るまで、あらゆる面から検討・実践され、近代的な都市計画の最初のものとなる。その後、イギリスでは社会改良家による同様な試みが続き、E・ハワードの「田園都市」(第58編参照)を経由して近代都市計画が発展する契機を作った。その意味で、歴史的に極めて重要な位置を占めているのである。

1824年、オーウェンは家族とともにアメリカに渡った。そして、インディアナ州ハーモニーに土地を取得し、新天地での大規模なモデル村の建設に取り組んだ。しかし、数年後にこの実験は挫折する。息子たちはアメリカに残り、政治家などになって活躍したが、故国に戻った彼は恵まない晩年を送ったという。それでもなお、試みの多くは現代の抱える都市の課題に答えるヒントに溢れている。



写真55-5 同寝室



写真55-4 労働者住宅の居間・食堂